

城南家保ニュース Vol.28-6

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



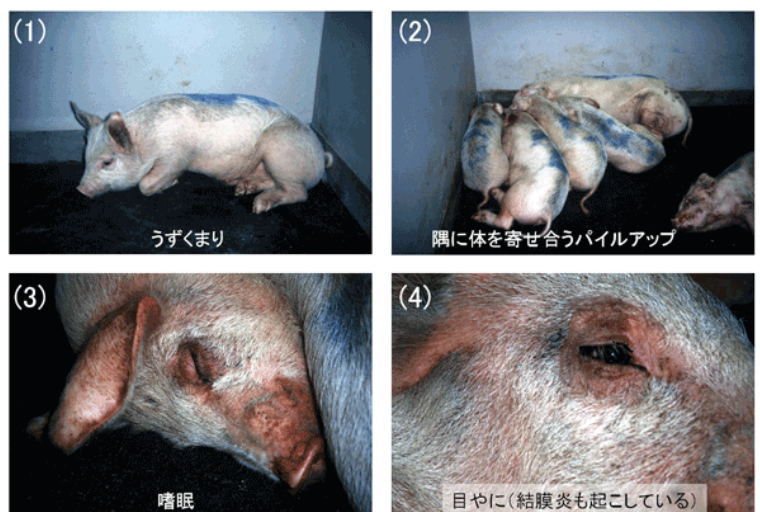
韓国における豚コレラ発生について

平成28年9月3日に韓国京畿道漣川（ヨンチョン）郡において、豚コレラの発生が確認されました。韓国における豚コレラ発生は、本年6月23日の済州島での発生以来となります。また、本土での発生は約3年ぶりとなります。

豚コレラは、豚コレラウイルスの感染によって起こる熱性伝染病で、41℃以上の発熱、食欲不振等の症状を主徴とし、高い致死率と強い伝染力が特徴です。感染豚は、唾液、涙、糞尿中にウイルスを排泄し、感染豚との直接接触や汚染物品を介して感染します。日本では、平成5年以降発生しておらず、平成19年には豚コレラ清浄国となっています。

周辺諸国では、豚コレラ以外にも、口蹄疫、鳥インフルエンザ等の畜産に多大な影響を与える伝染病の発生が認められています。畜産関係者におかれましては、伝染病発生情報の収集に努め、発生国への不要不急の渡航は控えるようお願いします。特に養豚農家におかれましては、飼養衛生管理基準の重要項目に規定されている関係者以外の衛生管理区域への立入禁止、食品残渣飼料の加熱処理等の対策をきちんと遵守し、農場内への病原体侵入防止に努めるようお願いします。また、豚コレラを疑うような発熱及び死亡豚の増加等の異状を発見した場合は、速やかに当所まで御連絡くださるようお願いします。

(左) 韓国における発生地点について



(上) 豚コレラの臨床症状（農研機構HPより抜粋）

平成28年度鶏病研究会熊本県支部鶏病技術研修会が開催されました

平成28年8月31日、熊本県中央家畜保健衛生所において平成28年度鶏病研究会熊本県支部鶏病技術研修会が開催されました。本研修会では当所からの演題も含め6題の発表があり、細菌や寄生虫を原因とする鶏疾病、移行抗体の半減期、熊本地震の影響、防疫体制整備、天草大王販路拡大等の多岐にわたる話題でした。

また、特別講演として『ワクモ被害ゼロを目指した害虫集積装置の開発と異分野融合研究～飼育環境の「みえる化」と恩恵』という演題で、香川大学の松本由樹先生が御講演されました。集積装置によりワクモ捕獲数をカウントすることで、農場内の被害状況や対策の効果等を可視化（みえる化）するという内容で、現場で活かせる有意義な講演でした。

今後も養鶏振興並びに安全な家きん生産物の供給に寄与できるよう、本研修会を活用して情報の提供及び収集を行っていきたいと思っています。



演題発表を行う城南家保・佐々木主任技師

特別講演を行う香川大学・松本准教授

海外における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
低病原性 鳥インフルエンザ	アメリカ	7月2日	家きん	H5
		7月4日	家きん	H5N2
	デンマーク	8月2日	家きん	H5N2
高病原性 鳥インフルエンザ	ベトナム	6月10日	家きん	H5N6

8月31日現在

編集後記 (F.T)

松本由樹先生は、解剖学を専攻していながら、ワクモの対策について研究されています。ワクモ研究に至った理由は色々あったのですが、先生から伝わってくる物事への好奇心・探究心がとても印象的でした。学びのスタートは好奇心であると思います。解剖学を専攻していた大学時代を思い出し、先生に倣いたいと思います。